

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年1月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 碩済会
事業所名	グループホーム 敬史館
所在地	鹿児島県鹿児島市本名町494番地 (電話) 099-294-1717
自己評価作成日	平成22年11月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・防災については、地域住民だけではなく同業者との連携・協力体制への取り組みを呼びかけている。
- ・協力病院、施設、在宅事業所(訪問看護・訪問介護)等もあり、医療体制が整っており利用者、家族安心して生活出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・郊外の静かな住宅街に位置し、医療機関・福祉施設等が隣接しており、利用者・家族が安心して生活できるホームである。
- ・利用者の力量をその人らしく発揮できるように、日々のケアに取り組んでいる。
- ・職員は、向上心が高く内外研修の参加や資格取得に意欲的に取り組んでいる。また、職員間の意思疎通がよく、チームケアが図られている。
- ・福利厚生が整い、働きやすい職場であり、職員の異動もほとんどない。
- ・職員に防災担当委員を配置し、2ヶ月毎に防災訓練を行っている。
- ・ホーム便りや防災新聞を定期的に発行し、地域に配布し地域との交流を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当時から施設独自の理念を作り、毎日朝の申し送り時に全員で唱和し職員が意識して働いている。	事業所独自の理念を玄関やリビングの目に付きやすい場所に掲示し、パンフレットにも載せている。職員は、毎朝の申し送り時に唱和し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自覚してもらう為に回覧板を回したり、音楽イベントや敬老会等の活動へ積極的に参加し、施設の防災訓練等の参加協力を地域の方々へ依頼したりボランティアの方々に施設に来てもらうなどしている。	町内会に加入し、地域の敬老会や文化祭・音楽イベント等に参加している。学園のクリスマス会にも出かけている。ボランティアによる、アニマルセラピー・尺八演奏・踊り等の受け入れも行い、日常的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域貢献の一環として施設では道路のゴミや空き缶拾い等を利用者と一緒に行ったり、運営推進会議や家族会などを通じて認知症キャラバンメイトが主体となり認知症サポーター養成講座を開くなどして地域の方々へアピールしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成委員の方々に施設サービスの実際を報告し理解してもらい、意見交換を行うなどして課題を見出しサービスの向上に生かしている。	運営推進会議は家族や地域の代表・地域包括支援センター職員等の参加を得て、定期的開催し、サービスの取り組みの報告や情報交換を行っている。暖簾をつけたり、職員の顔写真の掲示等、出された意見や要望を日々のサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方も運営推進会議に参加してもらい、待機者確保を呼びかけたり施設サービスの状況報告や認知症ケアの事例検討会を実施している。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加している。事業所の状況報告や認知症の事例検討会等を行ったりして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当施設においては身体拘束ゼロを目標に管理者を中心とした委員会を立ち上げ、毎月のスタッフミーティングの中で勉強会を開いて全員が正しく理解して取り組んでいる。	毎月のミーティングの中で、身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を行なっている。玄関の施錠を含め身体拘束ゼロに向けてのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を発足し毎月のミーティングの中で勉強会を開いて全員が理解し、施設内虐待防止に努めている。また、外泊などにおける家族による虐待防止にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修を受けた職員による研修会を開き全職員が勉強会に参加して理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>規約の締結や解約においては管理者、ケアマネジャーが中心となり重要説明事項を利用者や家族が納得のいくように詳しく説明している。また同意も得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情窓口は計画作成担当者や管理者が中心となり、苦情はその都度対応し直接言えない家族においては意見箱を設置し運営推進会議等を通して公表している。</p>	<p>家族等の訪問時に、利用者担当の職員が声かけを行い、意見や要望を聞いている。出され要望等は、家族や職員と話し合いを行い、運営やサービスに反映させている。意見箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>個人面談やレベル評価表を活用したり代表者委員会や各委員会を活用して意見を聴く場を設けている。</p>	<p>代表者・管理者は、全体会議や各委員会・事例検討会の中で職員の提案や意見を聞いたりしながら、運営に活かしている。個人面談も行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>本年度から個人目標シートを作成してもらい、個々の面接などを行ったり行動レベル評価を行い環境、条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の事業計画や研修計画を立て職員一人ひとりの力量にあった研修に参加できるようにしている。また一人の研修の機会を職員全員が共有しあってケアの質の向上に生かしていけるように研修報告会を設けて話し合っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア交流会を通して他事業所間の見学会を行いネットワーク作りや意見交換会などを行い、お互いの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時にあらゆる関係者から情報を収集し、本人が今一番不安な事や困っていることなどを傾聴し安心して暮らせるように職員全員でケアの方向性を共有し確認しあっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に家族からの要望や意見を聞き、全体ミーティング等で職員全員へ伝達し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時カンファレンスを行い利用者本人や家族が今一番必要な物等を見極め、施設外のサービスも視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる所、出来ないところを見極め、料理の出来る方には一緒に台所に立ってもらい、昔ながらの味付けや方法を教わったり、男性の利用者からは大工仕事などを教わったりして暮らしのパートナーとしての関係作りを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を設ける方法として、支払い方法を振込みにせず施設に持ってきてもらうようにしている。また、面会時にはお茶などを提供し本人と家族でゆっくり過ごす機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで利用してきたスーパーやお墓参り、馴染みの人の家への訪問や良く通っていた場所などが途切れないように支援している。	馴染みの人の訪問時には、お茶を出したりして、ゆったりとした時間を過ごしてもらうようにしている。行きつけのスーパーマーケットへ買い物に出かけ、関係の継続を支援している。墓参りやカラオケ・馴染みの場所への外出など、家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を把握し、食堂は円卓テーブルにしたりテレビの回りにはソファを置いて利用者同士が仲良く過せる場所を提供し、孤立しないように玄関や廊下には長椅子を置いて自由に会話できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院へ転院されたり他施設へ入所された方々にはお見舞いに行ったりして困っていることなどの相談にのったり、ご家族のご意向や要望等に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全体ミーティング時、ケース検討会を開き、その人にあった暮らし方を見つけニーズを把握し、思いや訴えを受容し、その人のスタイルに合った支援を行っている。	利用者の希望や意向を、日々の会話や表情から把握に努めている。筆談でも行っている。困難な場合は、毎月のミーティングやケース検討会の中で本人本位に検討したり、家族と話し合いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの生活状況の情報を収集しサービス経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の過ごし方をケース記録や日課表に記入したり申し送りノートを活用して新たな情報収集に努めケアに生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は本人中心のプラン作成について本人、家族、全スタッフからの意見を聞きアイデアを出し合って介護計画を作成している。	モニタリングを3ヶ月毎に行っている。介護計画は、本人・家族・職員等、それぞれの意見を聞きながら、また全体会議でも意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。必要に応じた見直しも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアサービス内容チェック表や気づきノート、申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。また全体ミーティングを開いてモニタリングを行って介護計画の見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>他施設や専門病院及び訪問看護など地域資源を活用しながらその人のニーズに応じたサービス提供に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の文化祭や敬老会及び音楽イベントに積極的に参加したりボランティア（アニマルセラピーや踊りの方々など）を施設に呼んで交流を深めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望を重視し病院の定期受診や臨時受診を支援し、かかりつけ医との連携も図られて安心して受けられるように努めている。また、必要に応じて専門医の受診を行っている。</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院には、家族が同行しているが、職員が支援することもある。また、必要に応じて専門医の受診を支援し、連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	健康観察チェック表を活用し気付きや変化に付いては利用者状況表に記入し、施設看護師や訪問看護師に報告・相談し必要に応じては受診を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	協力病院の医師や相談指導員との連携も図れているために急変時における入院や早期退院に向けた関係作りが出来ている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	現在終末期の方はいないが重度化の方が数名おられ今後の方向性については早い段階での話し合いを随時行っている。また、全体ミーティングでチームケアや終末期についての勉強会も行っている。	重度化と看取りに関する指針について、利用開始時に、本人・家族に説明を行い、同意書ももらっている。職員はミーティング時にチームケアや終末期についても勉強会を行っている。また、早い段階で家族と話し合いを行いながら支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変や事故発生に備え施設看護師や管理者を中心としたマニュアル委員会を発足し毎月のミーティングの中で応急手当の方法や初期対応の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は二ヶ月に一回の定期訓練（夜間訓練含む）を行っている。また併設病院や施設での訓練にも積極的に参加して利用者の安全確保に努めている。地域住民向けの防災新聞を配布し訓練の参加協力を呼びかけている。</p>	<p>防災担当者を中心に、昼夜間想定で、2ヶ月毎に訓練を行っている。スプリンクラーと非常通報装置が設置されている。併設医療機関との訓練にも参加、協力体制ができている。また、地域の方々にも協力の声かけを行い、防災新聞も配布している。備蓄も準備できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに尊厳を持った言葉遣いや接し方をし、誇りやプライドを傷つけないように心がけている。居室に入るときは必ずノックしトイレや浴室などは外から見えないように工夫している。	誇りやプライドを傷つけないように、日々のケアの中での言葉使いや接し方に気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を表出できない方にはホワイトボードを使ったり、難聴の方には手話等を用いてコミュニケーションを図るなどしてその人の思いや希望を聞きとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルが構築しており、その人のペースや意思に沿った過ごし方（散歩、畑仕事、買物、カラオケ等）を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望に応じて訪問カットや地域の美容室に連れて行ったりしている。また、出来ない方は家族から本人の好みを聞いて洋服などを選択してもらったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好調査をし、その人の好みにあったメニューを作り食事提供している。また、準備も利用者と一緒に下ごしらえから配膳、下膳、食器洗いまで行っている。	畑で収穫した野菜を使いながら、下ごしらえや配膳・下膳を利用者と職員は一緒に行っている。年2回嗜好調査も行いながら好みのメニューを取り入れたり食事形態にも配慮し、食事が楽しみなものになるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式の焦点情報を活用し水分量や食事摂取量をチェックしている。また、不十分な方においては栄養士や主治医に相談し栄養補助食品等の検討に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを促し、一人ひとりの口腔内の状態観察に努め、必要に応じては協力歯科医に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	センター方式の焦点情報を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を促したり、夜間はポータブルトイレを設置したりオムツ使用を減らす工夫をし排泄習慣づけを心がけている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は、トイレ誘導に努めている。夜間はポータブルトイレを設置し、できるだけオムツ使用を減らし、排泄への自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な方には腹部マッサージやホットパック実施している。また、日常生活の中でラジオ体操や散歩等の運動を促したり食材等は肉類を減らし、食物繊維を多く含むものを使用し料理にも気配りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	無理に入浴を勧めずその日の気分やタイミングを見計らって入ってもらっている。また、温泉入浴剤などを入れたりして楽しんでもらっている。	入浴剤を使用し、温泉気分が入浴したり、声かけに工夫しながら、一人ひとりの希望・タイミングに合わせて、入浴を楽しむことができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の馴染みの布団を持ち込み、天気のいい日は干したり、シーツを定期的に洗って気持ちよく安眠できるように支援している。また、テレビの周りにはソファを設置したり煙草を吸われる方には喫煙所を設けるなどしてゆっくり過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を活用したり、協力病院の薬剤師に相談したりして全スタッフが用法、用量について理解する努力をしている。また、疑問点については施設看護師や訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状況やその人の力量に応じて台所の手伝いや洗濯物を干したりたたんだり、花壇作りや畑仕事など役割を持ってもらい楽しみや気分転換を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿って昔なじみの場所に連れて行ったり、買い物やドライブなど日常的に行っている。また、家族や地域の方々の協力も得ながら外出の機会を支援している。(カラオケ、外食、買物)	日常的に、買い物やドライブに出かけている。一人ひとりの希望に添って、田んぼや畑を見に出かけたり、家族の協力をもらいながら、カラオケや外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は家族と相談してお小遣い程度のお金を所持し、自動販売機で自由にジュースなどを買えるように支援している。また、出来ない方には訪問ヤクルトや一緒に近くのスーパーに行き買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも自由に使用していただいている。出来ない方においてはご家族の面会時、手紙を手作りして渡している。また、家族向けの新聞に本人のメッセージを書いてもらうなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には利用者手作りの作品を展示したり、食堂テーブルには四季の花を飾ったり、廊下にはちぎり絵等を展示しソファや長椅子に座り自由にくつろげるように支援している。空気清浄機などにより煙草などの臭いが入らないように努めている。	リビングには、ソファ・テレビ・マッサージチェア・空気清浄機等が置かれている。季節の花が活けてあり、貼り絵や折り紙等の手作りの作品が廊下や壁に掲示されている。長い廊下には椅子が置いてあり、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室であり、一人になりたい時は居室で休まれたり、気のあった利用者同士で楽しく歌ったり、思い思いに過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて馴染みの物（タンス、ソファ、テーブル、仏壇など）及び家族の写真や本人が作った作品などを置いて本人が安心して過ごせる居室作りを工夫している。	本人や家族と相談しながら、テレビ・布団・仏壇・椅子・家族の写真・自分の作品等が置いてあり、本人が居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーになっており、廊下やトイレは手すりが設置してある。また、トイレや居室などの場所が分からない方には大きな字で表示するなどして本人が安心して自由に行動できるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない